

ENOKI

えのき



「不老長寿」との言い伝えが残る「むべ」の果が昨秋はたくさん実りました。春に白い花をつけ、秋に7〜9センチほどの楕円形の実を結びます。アケビとよく似ていますが、アケビは冬になると葉が落ちてしまいますが、「むべ」は一年中緑を保ちます。「むべ」を割ると半透明のゼリー状の果肉と種が詰まっています。ほんのり甘く素朴な味が楽しめるようです。

榎町地域センター2階談話コーナーからご覧いただけます。

榎町地域センター2階ベランダの「むべ(あけび科)」の実が色づきました。



10 早稲田町

早稲田町は都道25号早稲田通りの北側に沿うように、東西約600mの細長い地形をしており、町内或いは隣接して地下鉄東西線早稲田駅・榎町特別出張所・牛込消防署早稲田出張所・鶴巻南公園・早稲田公園・早稲田大学・ヨークフーズ・三徳と言った公用施設等があり、平成29年秋には近隣に新宿区立漱石山房記念館と草間彌生美術館も開館し町会員も有用に利用しております。

歴史的にみるとこの地に人が住み始めたのは鎌倉時代以前からで、武蔵野の片隅に漸くその地名を残す5、6軒から10軒もどうかと思う百姓部落ではなかったかと考えられ、鎌倉幕府頃に牛込氏がこの地付近に拠を構えた頃にはすでに早稲田の地名があったと推察されています。

この早稲田と言う地名の由来は南高北低の地形で日当たりも良くない耕地に植え付ける稲作等も早生稲種を主に選んで作っていたりした事から起きた地名で、今なお古人の言葉に早稲田田圃或いは茗荷畑の呼名が残っていると語られております。

時を経て徳川時代になると、この町及び周辺地域は寺町の様相を呈し現在残っている龍善寺・宗源寺・宗清寺、今は落馬地藏尊を残した大養寺及び隣接して済松寺・宗参寺・正法寺・建勝寺等が建立され、加えて天祖神社の社域として寺有地又は領有地等に土地をとられ更に人口も増加して御府内の職人達或いは下級武士の居住等が幾分入り込んだ為に、農民は鶴巻方面に耕地を求め生計を立てていたものと考えられております。

やがて明治時代になりその中期に早稲田大学の前身である東京法律学校が設立開校されそれと共に鶴巻方面、分けても学校周辺を中心に急激な人口の増加がありました。

当時当町は明治の為政者大養毅氏の家屋敷、日清戦争の元勲長谷川元帥の家屋敷更に元満州総裁或いは関東督府長官白仁武氏の屋敷の一部等に



● 大養寺 落馬地藏尊



● 宗清寺



● 宗源寺



● 龍善寺

相当の空地をとられておりましたが、その後の東京市の発展に併せて現在の形に至る事になります。町会としての活動は大正12年9月の関東大震災後の救済物資の配分に苦慮した事を機に大正13年6月に初代会長を退役陸軍少将長谷川猪三郎氏として先覚者各人の努力により町会を結成した事から始まりました。

その後世界大戦を経ながら紆余曲折し、現在の形になるのは昭和27年4月に村橋直哉氏を第8代会長として早稲田町町会が発足してからです。

地下鉄東西線は昭和37年秋に工事が着工され、昭和39年12月に九段―高田馬場間が開通し当町には「早稲田駅」が設置されました。その後昭和42年9月に国鉄中央線荻窪―東西線東陽町間が相互直通運転として開通し昭和44年3月に東西線中野―西船橋間が全通し同年4月より中央線三鷹―総武線津田沼間が直通運転されるに至り早稲田町は躍交通至便の町となりました。

地下鉄開通後からバブル崩壊を経て現在に至る間、在来の木造住宅から鉄筋・鉄骨の中高層建物への建て替えが進んだ結果会員数は段階的に増加していきました。

会員数は現在665世帯ですが、その内560世帯はマンション・アパートといった集合住宅の居住者です。

町会員の構成は自営業(商店等)が少なく、いわゆるサラリーマンと呼ばれる会社勤めが多くを占めその為町会の活動も多くの商店を有する町会に比べておとなしいものとなっております。

早稲田町町会では会員相互の親睦を深め、町の繁栄と共同の福利向上に寄与する事(会則による)を目的に近隣他町会の皆様と同様の町会活動を行っております。



江戸川小学校

開校115年の記念すべき年です。コロナ禍の中で、盛大にお祝いをする行事は出来ませんが、新しい歴史への第一歩になる年にしよう、前年度の秋から計画していたことがありました。

それが、画像にもある通学用帽子(通称校帽)の作成です。

江戸川小には区内の他校のような校帽がありませんでした。児童は1年生の入学時に配付される交通安全用の黄色い帽子を卒業までの登下校時に着用していました。もちろん黄色い帽子を江戸川のシンボルとして愛着をもつ児童卒業生もたくさんいます。

しかしながら、数年前から児童増加や学級数増加等で学校を取り巻く環境が大きく変化してきたことを機に、新しい歴史が始まることを実感できることをしてみようと思いました。

帽子の配色は、濃紺に桃色のラインが引かれています。濃紺は本校が100周年を記念して作った法被とほぼ同じ色です。桃色は校章に描かれた桜の花をイメージしたカラーで、左側頭部にはその校章が桃色の刺繍糸で縫い取られています。

校帽が全児童に配付されたのは、9月です。一斉休校の影響で納期が遅れてしまいましたが、翌日から2年生以上の児童は着用しています。1年生は、年度末までは登下校時の交通安全を優先し、黄色いランドセルカバーと帽子を着用し、来年の4月から校帽を被って登校します。

この作成事業に関しては、各町会やPTAの方々から多大なるご協力をいただいたことも最後に付け加えさせていただきます。



榎町地域センターからのお知らせ

◆登録団体更新の手続きについて◆

現在ご使用いただいている緑色の「団体登録証」の有効期限は令和3年3月31日までです。

更新の手続きをされていない場合、4月1日以降、登録団体としてのご利用ができなくなりますので、左記により更新の手続きをお願いいたします。

*更新手続き

既にお送りした①団体登録申請書②団体の規約・定款等③会員名簿④新宿区地域センター(団体登録更新に関する同意書をセンター事務局へ代表の方がお持ちください。その際に、健康保険証・免許証など住所が確認できるものを提示してください。

*新しい登録証の有効期限は、令和3年4月1日から令和6年3月31日までです。
令和3年4月以降の利用について、インターネットで予約を行っても更新手続きが終了していない場合、当日の利用はできませんのでご注意ください。

問合せ先：榎町地域センター事務局 TEL03(3202)8585

◆ガーデニング講座 受講者募集◆

あなたも専門家の指導でガーデニングを学んでみませんか!!

日時 令和3年3月23日(火)
午前の部10時30分～12時30分
午後の部13時30分～15時30分

会場 榎町地域センター
4階多目的ホール

募集定員 午前の部・午後の部各16名 先着順

参加費 2千円(花苗・用土・鉢代を含む)
※当日お支払いください

申し込み 電話で榎町地域センター事務局まで
電話 03(3202)8585

申込期間 2月10日(水)～2月22日(月)

※詳細についてはポスターをご覧ください

◆健康体操教室参加者募集◆

健康で明るい未来のために、あなたも楽しく体操をしてみませんか！
皆様の参加をお待ちしています。参加は無料、年齢制限はありません。

*実施日

前期 令和3年4月～7月の第1・3水曜日
後期 令和3年9月
令和4年1月の第1・3水曜日

※前期・後期いずれかを選択し申し込みください

*時間

各回とも午前10時から約1時間

※定員 前期・後期とも先着順各15名

*場所 榎町地域センター
4階多目的ホール
新宿区早稲田町85

*問い合わせ・申し込み先
榎町地域センター事務局
TEL03(3202)8585

*持ち物等 当日は軽装で飲み物をお持ちください

えのき文芸



七母の里赤きとまとの丸かぢり

奥瀬 イチ

下町の奥の奥まで良夜かな

加藤 千代子

納豆を売る声冬の寒さかな

北爪 嘉彦

空き家かな 椿一輪凜と咲く

佐藤 明

廃校の窓に飾りか氷柱ゆれ

山口 敏子

降り立てば寂しき村や冬の月

持主 次郎



赤ペコはいやいやしない宜しくね

米寿だぞどしてコロナに負けるんだ

菅野あきら

父の背を妻子に見せてテレワーク

赤ペコがそうだとそうだと首を振る

小山 一湖

男にはダメージデニムがただのボロ

洗心の手水で流す千々の垢

滝口 泉

二十年共に暮らした家族猫

今日もまた動ける幸に日の出拝

田実 孜

教師にもアンチョコがあり冬休み

北爪 嘉彦



背を伸ばしさと追いつく越す人見れば

錢で若さが買えぬものかと

奥瀬 イチ

日盛りの暑き牛舎に風通り

村静まりて人影もなし

加藤千代子

玉堂の枯山水の庭をかざり

一本のもみじ緋の色彩う

金成 光祥

紅の枯葉の色も地に染まり

天より降れる白き静寂

滝口 泉

老松は葉苞を巻き冬構え

少女は赤いマフラーを巻く

中村 道雄

雪深いローカル線の無人駅

マフラー巻いて一人下車する

山口 敏子

広報部からのお知らせ

広報誌「えのき」に関するご意見やお問い合わせ、情報提供など、榎町地域センター事務局までお寄せ下さい。

「えのき」文芸に掲載の作品を募集しています。次号の俳句のお題は『春』、川柳は自由吟です。

投稿はハガキかファックスに、俳句川柳の別を明記の上、3月10日(水)までに榎町地域センター事務局迄お送りください。

〒162-0042

新宿区早稲田町85

TEL 03(3202)8585

FAX 03(3202)2478

榎町地域センター管理運営委員の募集について

榎町地域センターは新宿区から指定管理者として選定された「榎町地域センター管理運営委員会」が貸館業務の他、地域センターまつり、落語会、ミニコンサート、カラオケ大会などの事業を行っています。今回募集する「管理運営委員」の皆様には、これらの事業の運営面でのお手伝いをしていただくものです。「地域コミュニティの活性化のために」ご尽力いただける方は是非応募ください。

◆応募資格

◆榎町特別出張所管内にお住まいの方

◆任期 3年

◆募集人員 若干名

◆問い合わせ及び申込先

榎町地域センター事務局
早稲田町85番地

TEL 03(3202)8585